



気仙沼 NN 通信



「気仙沼 NN 通信」は、気仙沼地方振興事務所農業農村整備部の広報広聴活動の一環として、主に気仙沼管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせするものです。掲載内容についてお問い合わせなどありましたら、お気軽に当部（農村振興班）まで御連絡ください。

【農山漁村地域復興基盤総合整備事業（ほ場整備） ：令和2年度南三陸地区（廻館工区）田んぼアート】



令和2年5月、南三陸地区(廻館工区)にて今年で4度目となる田んぼアートの田植えが行われました。

今年は約40アールの農地に5種類の苗を植付けし、「五輪マーク」を描きました。

昨年までは地元の学校や民間企業から多くの参加者を募っていましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で廻館営農組合の組合員が田植えを行いました。

田植えから約5ヶ月、稲の色も徐々に色づき、田んぼアートが完成しました。



田んぼアート(R2.9撮影)

【みやぎの地域資源保全活用支援事業 ：気仙沼市赤岩地区への住民活動支援事業】

当事務所では、昨年度よりみやぎの地域資源保全活用支援事業の一環として赤岩地区への住民活動支援を行っています。昨年度の話合いの中で、中山間地域に位置する当地域には、農地の基盤整備が必要との声が上がリ、「羽田・物見地区圃場整備推進委員会」が主体となって、農地整備事業の事業化に向けた取組みを進めることになりました。

今年度は、農地整備事業の核となる「地域整備構想」を策定し、当集落の営農状況の確認や将来の営農目標について方針を決定します。



打合せの様子 (R2.8撮影)

【令和2年度多面的機能支払交付金活動支援研修会】

令和2年8月20日(木)、宮城県多面的機能支払推進協議会の主催により令和2年度多面的機能支払交付金活動支援研修会が気仙沼市はまなすの館で開催されました。

今回の研修では気仙沼管内の活動組織に対し、推進協議会及び宮城県の担当者による令和2年度の改正点等の説明や国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の遠藤和子氏による組織の広域化推進に向けた事例紹介がありました。

当日は気仙沼管内から51名が参加しました。研修を通じて、本事業への理解促進に大きく役立つことが期待されます。



研修の様子(R2.8撮影)

【農地海岸について】

気仙沼管内には、津波や高潮などの被害から農地を保全する農地海岸が24箇所設置されています。平成23年東北地方太平洋沖地震災害により甚大な津波被害に遭いましたが、平成31年3月までに全ての農地海岸復旧工事が完了しました。

工事完了後は、海岸巡視パトロールや一部海岸での草刈りを定期的に行い、適切な維持管理に努めています。

また、令和2年9月2日(水)には民間企業主催のもと、草木沢地区陸間、清水(1)地区陸間において、震度5以上の地震等大規模震災が発生した場合を想定した配備体制の確認や、応急対応の訓練が実施されました。



草刈りの様子(R2.5撮影)



訓練の様子(R2.9撮影)

宮城県気仙沼地方振興事務所農業農村整備部 (編集：農村振興班)

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL：0226-25-8075

FAX：0226-22-1608

HPのURL：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-m/>



だて正夢